

消防団員歴3年

## 万が一のとき 誰かの助けになりたい

そん みんなそく  
宋 旻錫 さん

(株式会社 ダイナックス)



韓国出身／里美在住／38歳／23歳から7年間軍隊に在籍、26歳からは大尉として韓国の消防隊で指令を司る／定年後に韓国に帰国するまで消防団で活躍することが目標／休日はぶどうなどの家庭菜園や子どもたちとの釣りを楽しむ／職場ではキャンプ事業室長として活躍

市内で活躍する唯一の外国人消防団員の宋旻錫さん（韓国籍）にお話を聞きました。

消防団に入団したきっかけを教えてください

広報ちとせに掲載されていた消防団の募集記事を見た妻から勧められました。元々、自分が持っている力（韓国の軍隊での経験で得たもの）を誰かのために使えたらと思っていたので、すぐに応募しました。

入団してよかったことや印象に残っている活動をお聞かせください

今年の4月に、韓国仁川市の消防本部と義勇消防隊（韓国の消防団）が千歳市を訪れ、消防本部と消防団の取り組みについて情報交流をしました。そのときに通訳を行いました。

日韓交流の架け橋となれたことがうれしかったです。初めての訓練で本番さながらの心肺蘇生を見たときの驚きと、40mのはしご車に乗った時の恐怖感によく覚えています。

普段はどのような活動をされていますか

火災出動などの災害出動の経験はまだありませんが、大規模災害に備えて、普段から消火、救助などの訓練を行っています。また、外国籍唯一の消防団員として、ALIT（外国語指導助手）に協力していただきながら多言語対応訓練（外国人の救急対応シミュレーション訓練）を消防隊員や救急隊員と一緒にしています。

消防団員に興味がある方にひと言

万が一のとき、周りの人を助けるためには普段からの準備が必要です。消防団の活動は、所属する分団にもよりますが、応急手当指導員・普及員としての活動（講習会など）や日ごろの訓練など、年10回程度の活動があり、万が一のときに誰かの助けになるスキルを身につけることができます。ご興味のある方は消防本部総務課（23）5312へご連絡ください。

## 先生、教えて!



### 子宮頸がん HPVワクチンについて



市立千歳市民病院  
上席医監（産婦人科担当）津村 彦彦

今回は、子宮頸がん（HPV）（ヒトパピローマウイルス）ワクチンについてお話しします。

20歳～30歳代の女性がかかるがんの中で最も多いのは子宮頸がんです。

日本では、年間約1万人が新たに子宮頸がんを診断され、約3千人が命を落としています。

発症が若年化し、罹患率・死亡者数が増加傾向にある子宮頸がんの95%以上は、HPVの持続感染が原因ですが、「定期的な検診」と「HPVワクチン接種」で予防可能な疾患です。

早期発見・治療のために、20歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受けましょう。早期に発見できれば、子宮を温存できる手術が可能です。

HPVワクチンの定期接種の機会を逃した方を対象に、国は、令和7年

3月末まで公費での接種機会（キャッチアップ接種）を提供しています。この時期を逃してしまうと、自費で約10万円程度の負担が必要となります。

接種完了には、6か月を要します（HPVワクチンは3回の接種が必要）ので、未接種の方は、本年9月末までに是非とも接種を開始してください。キャッチアップ接種対象者は、1997年4月2日～2008年4月1日生まれの女性です。

※ご不明な点は、千歳市保健福祉部母子保健課（24）3148に問い合わせください。

※HPVワクチンは、子宮頸がんを100%予防できるわけではありません。また、ワクチン接種前に感染しているHPVの排除や、発症した病変の進行予防効果は期待できませんのでご注意ください。

第23回